

# バウビオロギーの 通信教育を計画

「真の住まいづくりの担い手養成のために」



日本バウビオロギー  
研究会代表  
石川恒夫さん

バウビオロギー（建築生物学）の普及に努める

日本バウビオロギー研究会（代表・石川恒夫前橋工科大学大学院准教授）は設立5年を経て、当初からの事業目的の一つ、通信教育による専門家の養成をスタートしようとして準備している。

ドイツの研究機関バウビオロギー+エコロジー研究所ノイボイエルン（IBN）が30年来実施

## ●通信教育バウビオロギー目次

1 バウビオロギー入門	14 騒音-遮音-建築の音響
2 環境と住居の立地	15 建築構造
3 住環境	16 空間-フォルム-尺度
4 建築工法	17 住居心理学
5 建材と部位のエコ収支	18 エコ社会的な空間秩序
6 木材防腐、住まいの害虫、菌	19 オープンスペース
7 生物学的建築材料学/建築の物性	20 住居生理学+住まいの安全
8 暖房設備	21 家具
9 給排水設備と節水の理念	22 光と照明
10 省エネコンセプト	23 塗料・色彩と表面処理
11 放射（電磁波）	24 建築法規-条例-品質検査
12 電気設備	25 実務におけるバウビオローグ
13 空気と汚染物質	【建築生物学者】

バウビオロギー通信教育のテキストは全25巻から成り、2100ページ。これを自習するのに約700時間を見込んでいる

## 社会のなかでのどう役割果たす!? 資格の明確な動機付けがカギに

している資格制度を、連携によって日本にも導入しようという試み。資格は「バウビオローグ（建築生物学者）」と呼ばれて欧州各国に普及し、ドイツにはすでに延べ2800人の有資格者がいるという。

教材はバウビオロギーの基本にはじまり、環境と立地、室内環境、電磁波、建材と部位のエコ収支など全25巻から成る「表参照」。ドイツ語テキストは2100ページで、現在翻訳中。約700時間（目安）の自習を行って延べ6日間のスクーリング（講座）を受け、筆記の修了試験に合格するとバウビオローグの資格が与えられる。

受講料はドイツを参考に20〜25万円を想定。学生割引など種々の割引も設定し、受講しやすくする（誰でも受講可能）。また自習は孤独感がともなうことから、インターネット上に受講者のコミュニティサイトを開設。疑問や悩みを相談したりアドバイスを書き込んだりして、励まし合いながら学べるしくみをつくる予定だ。

### 見えない費用対効果

同研究会はスタートにあたってIBNとライセンス内容を詰めているが、実現へのハードルは低くない。その一つは、カリキュラムの準備・運用にかかるマンパワーとコストだ。

「ドイツ語テキストをそのまま訳せば済むのではなく、法律や工法など日本の特性を勘案した適切な補足が要る。研究会の理事を中心としつつ、充実した講師陣も必要。それらに約800万円のコストがかかる」と代表

の石川恒夫さんは言う。

もう一つは、コストに見合う需要があるかだ。過当競争による経費圧縮で、多くの企業は社内訓練や人材育成に力を割けない。個人が自主的に取り組むうえでは、強い動機が要るといえる。

「バウビオロギーは時代の要請だと思う。とはいえ、資格を取ってもいまずぐ役立つ直接的なメリットは少ない。当研究会は任意団体だが、社団法人化も検討中。存在感を強め、バウビオロギーを育む社会的受け皿になっていく必要がある」